

笹野台小学校における情報モラル指導について

笹野台小学校では、ICTを活用するなどして、新しい学びの環境の中でも主体的、対話的で深い学びを行い、社会をよりよく生き抜く力を身につけるようにしています。しかし、インターネットはよい面だけでなく危険も伴います。使い方次第で「加害者」にも「被害者」にもなることがあります。そこで、笹野台小学校では、「情報モラル」指導を次のような視点で進めています。また学校の指導だけでなく、家庭と一緒に子どもたちに「情報モラル」を育てていくことも大切です。

- 長時間使用が体に悪影響があることを理解し、家庭で決めたルールをしっかりと守るようにする。
- ネットで知り合った人には、悪意がある場合があるため、自分の情報を与えたり直接会ったりしないようにする。
- ネット上に友達の悪口や嫌がることを載せない。
- 相手に対する書き込みや画像や動画のアップロードがいじめにつながる危険があることを理解し、相手を傷つけることがあるため、勝手に行わない。
- 自分のIDやパスワードを他者に教えることはしない。
- 情報の危険性から守るためには、フィルタリングが重要であることを理解する。
- 悪意のある情報があることを理解する。
- 常に情報の正確さを考えるようにする。
- 著作権・人権などの情報に関する法律について理解する。
- 個人情報保護の視点を理解する。
- 「正しく使う」とは、自分・他人を傷つけないこと、世の中のために使うことを理解する。
- 想像力・判断力・自制力・責任力の4つの力が身に付くようにする。
- インターネットを使う時には、「使い方」よりも「使い道」が大切であることを理解する。
- 困ったら必ず早い段階で、先生や保護者に相談する。

本校においても次のような案件が実際にあったと先日保護者から聞きました。子どもを悲しませないために、一人ひとりの子どもを大切にしたい教育を施すために、学校・家庭・地域で連携して取り組んでいきたいと思えます。

- 学校行事に参加していた保護者どうしが話していた、事実として確認できていない噂話が、子どもの耳に入ったとのことです。(情報モラルはインターネット上のことだけとは限りません)
- 子どもが事実と思い込んだ情報を、相手のことを考えずにラインに掲載したそうです。
* 不正確な情報や人を傷つける内容が伝わることで、関係する子どもが大変辛く、苦しい思いをしたことがありました。現在も心の傷になっていると伺いました。

子どものライントラブルは後を絶ちません。本校でも今後も指導を続けていきますが、ご家庭でも十分に気を付けていただきますようよろしくお願いいたします。